

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671700221
法人名	社会福祉法人 高越会
事業所名	グループホーム 希望の家
所在地	徳島県吉野川市山川町川東90-1 (電話) 0883-42-7588

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 7 月 11 日

【情報提供票より】(平成 20 年 5 月 19 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算	5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造り	
	1 階建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	その他実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	— 円	昼食	— 円
	夕食	— 円	おやつ	— 円
	または1日当たり 850 円			

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 5 月 19 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	0 名	要介護2	2 名			
要介護3	6 名	要介護4	0 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	81.7 歳	最低	64 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中西内科クリニック
---------	-----------

徳島県 グループホーム希望の家

1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は母体医療法人と同一敷地内にあり、公道までに距離があり交通量も少ない。利用者職員は信頼関係が築かれている。職員は穏やかで安定した生活支援を行い、利用者は役割を楽しむ行動をされ手際よく行われている。また重度化した場合や終末期に向けた話し合いは早い段階から取り組み、関係者間で方針を共有して何事にも前向きに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題には改善計画を立てて全職員で取り組んでいる。運営推進会議は2ヶ月に1回開催され記録が残されているが、職員の回覧の確認印・サイン等が改善されていない。その他の項目は改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で話し合い取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、利用者、家族、地域代表(自治会長、民生委員)、地域包括支援センター職員、運営者、管理者、法人関係者で構成されている。会議内容は利用状況や外部評価の結果が報告され、意見や苦情、情報などについて話し合い地域連携などにも活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見等は来訪時や運営推進会議等の機会に伺うよう努め、出された要望等は関係者間で検討し運営に反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームからは地域の行事や祭りに参加したり、日々の散歩時に地元の人々と対話したりしている。近くの小学生が来訪して利用者の似顔絵を描き、利用者は居室のドアに貼ったり居室に飾ったり、七夕飾りを利用者と一緒に飾るなど心温まる交流が図られている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしい生活を支援するため、事業所独自の理念をつくりホームに明示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は日々理念を確認し合い、共有して実践に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームからは地域の行事や祭りに参加したり、日々の散歩時に地元の人々と対話したりしている。近くの小学生が来訪して利用者の似顔絵を描き、利用者は居室のドアに貼ったり居室に飾ったり、七夕飾りを利用者と一緒に飾るなど心温まる交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で話し合い取り組んでいる。また外部評価を活かして課題の改善計画を立て具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、利用者、家族、地域代表(自治会長、民生委員)、地域包括支援センター職員、運営者、管理者、法人関係者で構成されている。会議内容は利用状況や外部評価の結果が報告され、意見や苦情、情報などについて話し合い地域連携などにも活かされている。議事録は保管されているが、職員が回覧したことが分かるサインはない。	○	議事録などは全職員に回覧してサインをするなど、内容が共有されていることを確認し、支援に活かされる仕組みづくりが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は運営推進会議以外にも市の窓口へ出向き、実施状況の報告や相談等を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回ファミリー通信(便り)を発行し、利用者の様子や状況、金銭出納帳のコピーなども定期的に知らせている。また体調不良時は電話で随時報告している。しかし金銭出納帳に家族の確認印・サイン等がない。	○	金銭管理を明確にするためにも、出納帳などに家族の確認印・サイン等をもらうことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見等は来訪時や運営推進会議等の機会に伺うよう努め、出された要望等は関係者間で検討し運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はなく馴染みの関係が保たれている。離職については利用者への影響が少なくなるよう説明するなど、納得を得られる働きかけをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者や職員を段階に応じて研修が受けられるよう研修計画を立て取り組んでいる。受講者は報告書を作成して回覧もされている。しかし報告書に確認印、サイン等がない。	○	全職員が研修内容を共有できるよう回覧された報告書に確認印、サイン等を記載されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修会や連絡会等の機会を活かして情報収集や交流を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談して頻繁に訪れてもらうなどして馴染みの関係を築き、利用者が安心して生活が送れるよう時間をかけて支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごす中で豊かな利用者の知識や経験を教えてもらったり学んだりして喜怒哀楽を共にし、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや暮らし方の希望を重視、把握困難な場合でも微妙な表情も見落とさないよう心がけ、家族等にも聞きながら本人本位に検討されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要な関係者と全職員で話し合い、意見を出し合い、本人がより良く暮らすための利用者本位の介護計画が作られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しと変化が生じた場合の随時の見直しは日々の支援記録、モニタリングを活かして本人や家族、関係者で話し合い、現状に即した新たな計画を作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族が安心した生活が送れるよう家族と相談しながら必要な送迎サービスなどを臨機応変に支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常的な健康管理は家族に相談のうえで母体医療機関に受診している。本人、家族が希望する他の医療機関を受診できる体制もとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者家族が安心して生活できるよう早い段階(契約時)から本人、家族やかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者個々のプライバシーを損ねないよう配慮され、秘密保持、個人情報の取り扱い等の徹底も図られ、プライバシー保護マニュアルも作成されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや体調に合わせて職員と会話を楽しんだり、役割や楽しみごとの活動をするなど本人の希望にそった支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に調理の下準備や配膳、後片付け等を行い、食事中も楽しく歓談している。職員も一緒に食事しながら全介助、一部介助をさりげなくさせていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じた入浴が支援されている。拒む方には時間をずらして声をかける等、個々にあった入浴支援をされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の有する力や希望、習慣等を活かしてその人の楽しみごとになり得ることを把握し、洗濯物を取り入れ、たたむ、掃除、調理の下準備、後片付け等の役割づくりが支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くへの散歩だけでなく天候や体調、本人の希望に応じて外出できるよう支援し、ドライブを兼ねて公園等へも出向き気分転換を図っている。また年2回のバス旅行等を計画するなど外出支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外に出たがる利用者の安全面に配慮し、玄関が施錠されている。	○	鍵をかけることへの弊害を理解し、日中は施錠しないケアに取り組まれない。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルや避難経路図等があり地域への働きかけも行っている。隣接するケアハウスと合同で一部の職員が参加して避難訓練等を行っているがグループホーム独自の訓練は行っていない。	○	グループホーム独自で訓練を実施し、火災や地震、災害時には利用者が安全に避難できる方法を身につけられることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の栄養・水分摂取量はこまめにチェックして記録に残され、法人内の栄養士などに定期的に助言を受けている。また利用者の状態に応じて介助方法を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは利用者にとって生活感や季節を感じられる空間づくりがされている。壁には職員と一緒に作られた利用者自慢の作品が飾られ、居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談して一番安心して過ごせるよう使い慣れた好みのものを持ち込まれている方など、個性ある居室づくりがされていた。		